

新年を
迎えて

吉備学園創立100年 新たな教育体制の構築を



新年おめでとございます。新しい年を迎えるにあたって、まず我々のポジションニングを考えることが必要であろう。

いま言えることは、グローバルゼーションという大きなマクロ的な流れの中にあるということである。その上で我々の使命は「有為な人材の輩出」

である。この二つのことは間違いのないところである。時は流れ、このグローバルゼーションという流れは国の内外に大きな影響を及ぼすと同時に、我々の小さな大学ですらもその流れに沿って物事を判断し、あるべき道を模索してゆかなければならぬ。道なき道を探しあて、我々の使命を全うしてゆかなければ、存続することすら許されないことも自明であるが、教育というのは、すぐに効果が出てくるものではなく、卒業後かなりの年月を経てはじめてその評価が行われる難しい問題を抱えていることも事実である。

この意味において我々の使命をじっくりと考え、計画し、実践してゆかなければならぬ。このために必要なことはポジションニングをいかに捉えるかであろう。

ここに興味を引くデータがある。中国のGDPはドルベースで過去10年間に約5倍、過去20年間に約20倍になった。先進国の象徴とされている米国ですら過去15年間で約2倍になった。日本はどうであろうか。日本は過去20年間、日本の名目GDPは500兆円で停滞をきたしている。「失われた90年代」と呼ばれてきた日本の経済事情はいまや「失われた20年」に延期されているのではないか。なんとという有様であろうか。元気な日本を支えてきたのは海外の新しい息吹を吸収して帰ってきた先駆的な賢者であったことは間違いない事実であるが、それも今では若者の留学熱は一時に比べて激減しているといわれている。そ

こには消極的な、短絡的なしかも目先の幸せをもつばら追求する縮じ込んだ若者像しか描けないのは私だけであろうか。我々の姿勢、明日の「有為な人材」を育てるといふ理念の下では、そんなちっぽけな夢を抱いていては将来に禍根を残す。

日本企業が世界経済でそのポジションを失いかけているのは、21世紀に入り新興国が台頭し、日本企業がグローバルゼーション市場の中でコスト競争力を失ってきたからである。当然ながら企業の国際化が必要であるが、敗因は日本企業がグローバル化に処でできていないことに起因することが指摘されている。国際化は面の広がりをつくれる概念であるのに対して、グローバルゼーションは「統合」が意味されており、二つは同一ではない。日本企業は国際化を図ることが出来ようとも、仲間内主義や純血主義で形容される体質を有しており、島国根性を払拭できていない閉鎖的な体質を擁しているといわれる。これに対して、グローバルな企業経営はオープン・システムの体質を擁するものであり、仕事本位のシステムが構築されている。このために、国際的企業といえども日本企業は「ガラパゴス化」の傾向を強めたという指摘もある。しかも「失われた10年間」の惰性がそれに拍車をかけ、時の流れに即した世界企業に必要な体質を十分に備えていない、という指摘は的を射たものではないだろうか。

同様なことは我が大学にも指摘できることである。世界が大きく移り変わる中で、明日に必要な「有為な人材」の輩出を狙う限り、「ガラパゴス化」は避けなければならぬ。明日の社会を読み込んだ新たな教育・研究姿勢及び組織戦略を必要とする。

我が大学の学生が4年間という短い期間に、変化の激しい明日の世界に十分対応できるだけの資質の涵養を図らなければならぬ。それに向けてすでに新しい方策が検討・準備されているが、大学挙げての英知を結集して今一度本学の理念にもとづく時代にふさわしい教育体制を構築したいと考える。

本年は吉備学園創立100周年を迎える年でもある。伝統を踏まえ、新しい時代に新しい教育体制の構築を願ってやまない。

(岡山商科大学学長 井尻昭夫)



CONTENTS

〈商大トピック〉

●第45回大学祭開催 ●キッズマネー教室開催 ●岡山後楽館高校生徒が体験授業に参加

〈アジアレポート〉

●2010年度のアジアビジネスコースについて ●「中国絵画・書道展」開催 ●孔子学院公開講演会開催

〈キャリアセンター便り〉

●人事担当者がキャリアカウンセラーに ●地学地就バスツアー ●卒業予定対象学内合同企業説明会開催

商大トピック

Topic 1

保護者懇談会開催

2010年度保護者懇談会が9月12日(日)本学において開催され、140名の保護者の方にご参加いただきました。今年度は本学のみでの開催となりましたが、多数の皆様にご参加いただけたことに改めてお礼申し上げます。今回は、商学部4年 岡佳佑君の『ボクのシューカツ体験記』と題した体験談発表や、人事コンサルタントを招いてのキャリア講演会など盛りだくさんの内容で、大変ご好評をいただきました。来年度は地方での開催も計画しておりますので、是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。(総務企画課)



就活体験を語る岡君

Topic 2

前期卒業式・後期大学院入学式挙行

9月15日(水)、前期卒業式を本館大会議室にて挙行了。学部は商学部9名(商学科8名、産業経営学科1名)、法経学部1名(経済学科)、経済学部2名の合計12名が、また大学院では商学研究科7名、法学研究科2名、合計9名の卒業生が井尻学長より学位記を授与され、思い出深い学舎を後にしました。卒業生の社会での様々な分野での活躍を願うばかりです。

また、9月30日(木)には後期大学院入学式を学長室にて挙行し、商学研究科に1名の学生を迎え入れました。

(総務企画課)

Topic 3

京山中学校生徒が職場体験学習

9月14日(火)～16日(木)の3日間、岡山市立京山中学校の2年生の生徒2名が本学で「職場体験学習」を行いました。生徒達は入試課では資料の発送の業務を行ったり、キャリアセンターでは実際に企業訪問に同行し、図書館では受付を担当し、学生と接し、希望の本をさがしたりと、日頃の授業では体験出来ない貴重な経験をしました。体験した生徒からは「笑顔と挨拶が大事であることがよくわかった」「仕事の大変さが身にしみた」等の感想が聞かれました。3日間と短い期間でしたが、生徒達には今回の経験を活かし、将来の進路を決めるきっかけや、新たな事を発見する一助となることを望みます。

(総務企画課)

Topic 4

岡山後楽館高校生徒体験授業

この度、岡山商科大学で授業を受けさせて頂き、誠に有難うございました。

初日は期待や興奮よりも不安の方が大きく、何かと心配ばかりしていましたが、教務課の職員の方々の穏やかな笑顔、そして学生の皆さん、先生方のご厚意のおかげで楽しい5日間を過ごすことができ、とても感謝しています。

多くのことを吸収することができたこの5日間は、かけがえのない大切な思い出となりました。

今回の体験授業で、世界には多種多様な人々が数多く生まれ、その一人ひとりが自分の持っている個性の輝きで世界を元気にさせていることを実感しました。

また、今まで、「勉強」とは自分の為だけにするものだと思っていたのですが、そうではないということ気付かされました。

勉強は自分の為だけでなく、周りの人々を幸にするためにするものだ気付けた時に、その人の将来はどのような輝きに包まれるのでしょうか。

きっと、暖かい柔らかな太陽の日差しに包まれながら、優しい人生を歩んでいくのだと思います。(岡山市立岡山後楽館高等学校 2年次 高岡龍右)



井尻学長、
田中教務部長とともに

Topic 5

第45回大学祭開催

まず、大学祭を無事に開催し終了できたことを心から嬉しく思います。

今年度の大学祭のテーマである『商劇祭～Magic Time 2010～』

は皆さんに笑顔で、魔法にかかったような特別な時間を過ごしていただける、そんな大学祭を目標にやってきました。今年度の、2日間に亘るお笑いトークショー、そしてメインステージや模擬店、そのどれをとっても皆さんに笑顔で魔法にかかったような特別な時間を過ごしていただけたのではないかと思います。正直なところ、大学祭をするにあたり辛いこともたくさんありましたが、それ以上に得たものは大きいと改めて感じます。大学祭を通して得た経験をこれからの大学生活に活かし過ごしたいと思います。最後になりましたが、今回快く協力してくださった関係者の皆様に改めて御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

(大学祭実行本部 委員長 坂本大輔)



オープニングの場面

Topic 6

学会学術講演会開催

岡山商科大学学会が主催する学術講演会が、11月2日(火)午後2時40分から772番教室で開催されました。今年度の講演会は法政大学法学部教授・廣瀬克哉氏をお招きして、「地域主権改革と今後の地方自治体」というテーマで行われ、本学教職員・学生だけでなく、一般の方や自治体関係者も受講されました。

講演のなかで廣瀬氏は、政府の地方行財政検討会議における議論を紹介しながら、住民が自治体の基本構造を地域の実情に応じて選択できるようにすべきであると主張されました。また、地方自治の本旨を改めて考える必要があり、自治体の決定が住民の意思を反映したものとして納得できるような仕組みを作らなければならないと訴えられました。

(法学部准教授 砂川和泉)



講演中の廣瀬氏

Topic 7

「日本事情」課外授業 ～「後楽園」と「岡山城」の見学～

11月13日(土)、「日本事情特設講義」の受講生を中心に35名が学園バスで現地視察学習へ行きました。その日、私達学生は赤と青の二つのグループに分かれて、専門のボランティアの案内で親切な解説を受けました。

江戸時代の大名庭園の「後楽園」は日本三名園の一つで世界に誇る歴史的文化遺産です。延養亭を中心にして、のびやかな芝生が広がり、池、築山、茶室が園路と水路で結ばれて、歩きながら移り変わる景色にひかれました。唯心山に登り頂上からは園内を一望でき、まるで水と緑の豊かな世界にいるような気がしました。流石に寄ったり、鶴舎ではタンチョウの優雅な姿にうっとりしました。そして、郭沫若氏の詩碑を発見し、中国の先人と後楽園のつながりを初めて知りました。抹茶を飲み、岡山名産物の吉備団子を食べながら、後楽園の美しさを満喫した後、岡山城の天守閣へ向かいました。

「岡山城」は戦国時代に宇喜多秀家によって築城され、江戸時代の一国一城を代表する城です。城の隅々まで詳しく解説を聞くことが出来ました。天守閣では浮世絵の展覧会の名作を見ながら、江戸時代の庶民の生活と文化に触れ、いっそう興味を持つようになりました。

半日の旅を通して、私達は日本庭園の美しさと岡山城を直接見て、手で触り、体験して日本事情と日本文化の理解を深めることができ、とても楽しかったです。

(経営学科 3学年 何麗平 劉晨微 王小杭)



岡山城をバックに記念撮影

Topic 8

韓国スピーチコンテスト 受賞者日本訪問

私は去る6月12日に岡山商科大学と忠清大学が共同開催した日本語スピーチコンテストで入賞し、その副賞として7月20日から3泊4日の日程で岡山を訪れました。

日本に到着して思ったのは、「韓国との違いはあまりなく、親しみやすい国」ということでした。そして、自転車で通勤をする人が多いこと、夕方になるとスーパーなどで特売セールが始まる事を知り、驚きました。この日、最も驚いた事は、自動販売機で様々な物を販売していることでした。このように自動販売機で

色々な物を見ることは韓国ではあまりないので、見習うべきだと思いました。

2日目は、岡山商科大学を訪問し、井尻学長とお会いした後、学内を見学しました。井尻学長はとても謙虚で慈しみ深い方で、キャンパスは伝統があり、物静かな雰囲気でした。大学を見学した後は、近くにある岡山商科大学附属高校を訪問して生徒達と交流をしました。そこでは日本特有のお菓子や伝統の遊びを学んだし、日本の学校生活の様子もよくわかるようになりました。

日本の生徒や先生と交流を重ねる中で驚いた点があります。それは、日本の人達は交流行事にみんな積極的だということです。これは必ず模範としなければならぬ事だと感じました。

2日目の夜は日本旅館に泊まりましたが、私は旅館の部屋に入った瞬間、驚嘆しました。それは「気持ち良く、安心出来る」と感じたからです。一般のホテルより、この旅館の方が私には心地よく過ごせました。温泉も疲れが取れ、快適でした。

3日目は瀬戸大橋や岡山城を見学し、日本の伝統文化に触れました。

日本での3日間は本当に楽しくて有意義な経験でした。この訪問を通じ、私は多くの日本人に会ったし、多くの日本の食べ物や文化に接し、貴重な経験をすることが出来ました。

今後も機会があれば日本を訪問したいし、真剣に岡山商科大学への留学を考えてみたいと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を提供していただいた井尻学長先生に心より感謝を申し上げます。

(韓国 清州大成高校 3年生 キム テホ)

Topic 9

韓国盤松高等学校生を短期語学研修生として受入

2010年夏(8月10日～14日の5日間)、韓国盤松高等学校生34名を本学初の試みである短期語学研修生として受け入れました。

研修生は、韓国で学んだ日本語を実践で試し、語学の向上と日本文化に触れ、実際の日本を肌で感じることを等々を目的とし、参加されました。

主な研修内容は、本学教員による日本語授業及び学外社会見学等でありました。日本語授業では、真剣な受講態度で貪欲に日本語を吸収したいという意欲が感じられました。また、社会見学では、地元テレビ局である岡山放送株式会社を訪問させていただき、実際のスタジオ見学やアナウンサーやスタッフの方々からの説明を受けました。大変興味深かったようで、次々と質問等があり、活き活きとした高校生の姿をみることができました。その他、後楽園・美観地区・瀬戸大橋見学及び大阪まで足を延ばしました。自由時間では、実際の日本語能力を試す機会でありましたが、研修の目的を達成するため、積極的に行動している姿を目の当たりにし、生徒の方々には貴重な体験ができたのではと感じました。短い期間でハードなスケジュールでの研修でありましたが、規律正しく本学が用意した研修プログラムに精力的に取り組む姿勢には感銘を受けました。

最後に、この本学での体験が34名一人ひとりの今後の人生に少しでも役立つことを願うばかりです。(総務企画課)

Topic 10

キッズマネー教室開催

アメリカやイギリスなどの外国に比べ、日本ではあまり進んでいない子供たちへの金銭教育を行うことで自らのスキルアップを実現したい。大学祭でキッズマネー教室を開催するというFPコースの伝統を作ることで、地域社会への貢献を行いたい。その思いから昨年に引き続きキッズマネー教室をFPコースの皆で協力して開催しました。

このキッズマネー教室の内容を説明すると、小学生を対象にゲーム形式で様々な収入と支出のケースをお小遣い帳に記入して、正しいお金の使い方を学ばせるというものです。まだ理解力・判断力の低い小学生に対して金銭教育を行うには、私たちの知識や説明力がとても重要な要素になってきます。

しかしながら、実際にキッズマネー教室で子供たちに接してみるとゲーム自体を楽しむことは出来ましたが、お金に関する知識や考え方、使い方をあまり考えることが出来ずに終わってしまうという問題点がありました。この問題点の原因としては私たちの説明力不足、事前の準備不足などが挙げられます。

今後も毎年キッズマネー教室を開催し、金銭教育をリアルタイムで学んでいる学生が多くの試行錯誤を繰り返していき、自らの金融リテラシー能力の向上に励んでいくことが、この問題点の解決に繋がっていくと考えています。

今回のキッズマネー教室を通じて、私たちは現時点での自分たちの能力を把握することができ、自分自身の未熟さを痛感するとともに、子供たちにとってこのキッズマネー教室のような金銭教育を行う場がいかに必要であるのかを強く感じることが出来ました。さらに私たち学生にとっても自らの能力を試す場として、キッズマネー教室を開催することは必要であると感じました。

今後も今回の反省点を克服できるよう金融知識を深めるとともに、コミュニケーション能力を身に付け進行方法も工夫しながら、FPコースの皆でキッズマネー教室に取り組んでいき、自らのスキルアップを実現しながら、まだ日本では十分に推し進められていない若い世代を対象とした金銭教育の場を提供していきたいと思います。

(経営学部商学科FPコース 1年生 中嶋勇輝)



キッズマネー教室の様子

Topic 11

第15回岡山県民大会ゴルフ優勝!

第15回岡山県民大会ゴルフ大会の決勝が11月5日(金)に、たけべの森ゴルフ倶楽部で行われ、3度目の挑戦で、念願の人生初タイトルを取ることができました。

実は大会数日前まであまり調子が良くなかった心配でしたが、大会に向け連日一生懸命練習し、大会当日は今まで練習してきたことを信じ、練習どおり打てるよう落ち着いてラウンドすることができました。

試合中は何度もミスをしていましたが、諦めず我慢し、集中力を切らさないよう一打一打を大切に打つこと



優勝した荒木君

を心がけました。

この結果、自分でも驚きの優勝という最高の結果が付いてきてくれました。

この大会は2011年の国体予選会も兼ねているので、4月から始まる最終選考会でもよいプレーができ国体出場が果たせるよう、全力を尽くします。

最後に、卒業まであと1年余り、ゴルフ部部长としては半年程ですが、部長としてゴルフ部の大会でもよい結果がだせるよう、部員とともに頑張っていきたいです。(商学部商学科 3年生 荒木一貴)

Topic 12

科研費の現状について

科研費は、平成23年度国の概算要求において、「新成長戦略」(平成22年6月18日閣議決定)を受け、我が国の成長の原動力となる「強い人材」の実現のために、さらなる拡充が図られています。若手研究者向けの「若手研究(A-B)」は採択率30%を目標とし、「基盤研究(C)」は人文・社会科学系を含む研究活動の裾野の拡大が図られています。また、ハイリスク研究を支援する「挑戦的萌芽研究」の機会が拡大(約2倍)など、若手研究者を支援する環境が整いつつあります。

本学においても、平成22年度は、基盤研究(B)が2件(研究分担者含む)、若手研究(B)が2件、研究活動スタート支援が1件の合計5件の採択を受けています。

研究種目・期間	研究課題	研究者(所属)
基盤(B) H22～24	調査データベース公有化における個人情報保護の統計理論	佐井至道 (経済学部・教授)
H22	イギリスにおける実効的・効率的な「行政的正義」実現に向けた構造転換に関する研究	伊藤治彦 (法学部・教授) ※研究分担者
若手(B) H21～23	組織内相互作用を通じた技術的知識の生成に関する史的・分析・戦前日本の電機企業	川合一央 (経営学部・講師)
H21～24	将来事象会計基準の国際的形成に関する研究	川本和則 (経営学部・教授)
研究スタート アップ支援 H22～23	日本の株式市場におけるバリュー・プレミアムに関するバズルの研究	山根明子 (経済学部・講師)

(総務企画課)

Topic 13

ユタリーノルーム活用を!

ユタリーノルームに学部別に専門の教員が選書した新着図書コーナーがあることを、あなたは知っていますか。西側に並んだ大きな棚には、学習に役立つ学生のための資料が満載です。レポートの作成や課題、研究をするとき必要な、専門分野の知識を吸収できること間違いなし!!

もちろん貸出可能です。必要な資料は早めに借りて情報を増やしましょう。

ところで、昨年度開設したユタリーノルーム。あなたは上手に活用していますか?友人達と、おしゃべりしながら学習できるとあって人気のスポットです。広い机、明るく快適な室内なので仲間同士のミーティングにも最適です。また女性優先席も設置しているので、女子学生の皆さんにも安心して利用いただいています。

図書館は情報の宝庫です。様々な発見、感動を得て学生生活に役立ててください。

(図書館課)

「岡山生活の1年目」

私は、今年度の4月に本学に着任しました。大阪から岡山に移り住んで、もうすぐ1年が経とうとしています。

この1年を振り返って印象的だったことの1つに、着任した月の17日に「まきばの館」で行われた経営学科1年生のオリエンテーションが挙げられます。そこで、初めて本学の学生と会食する機会を得ました。その頃の私は、新生活に慣れることに必死でしたので、岡山の文化や風習、方言はどのようなものか?本学の学生はどんな人たちなのだろうか?といった事に関心があり、学生との交流に夢中になっていました。今でも、学生と話すと「まきばの館」で食べた美味しいご飯や焼き肉の話が時々話題になり、良き思い出となっています。

また、岡山に来て面白いと思ったことは、スーパーの野菜コーナーで、「地産地消おかやまの唄」がよく流れていることです。メロディーと歌詞が良く、とても気に入っています。思わず通勤時に口ずさむときもあり、岡山の魅力を感じながら、新生活に慣れつつあります。

しかしながら、今でも新たな発見に出会うことがあります。たとえば岡山県出身の学生に吉備団子は好きですか?と訪ねると、食べたことがないと答える人が意外に多く、驚かされます。これからも新たな発見を求めながら、岡山生活を楽しもうと思っています。

本年から2年目の岡山生活を迎えます。気持ちを新たに、地元で就職を希望する学生の「地学地就」に少しでも貢献できるよう、頑張っ参ります。

作家の視点

江戸川乱歩賞作家 石井敏弘
本学非常勤講師(第十七期商学部卒)

平城京遷都1300年祭に想う

昨年、奈良で平城京遷都1300年祭が行われたのは、皆さん周知のことかと思えます。復原された大極殿を中心に、平城宮のエリアでは様々な催し物が引きも切らず続けられました。私もその巨大なイベントのごく一部に、作家として参与させて頂きました。

「朱都の記憶」なるイベント用のミステリー原作を作成し、全国から平城宮にいられた参加者に謎解きをしてもらう企画です。

「朱都の記憶」は奈良からの様々な要望を受けて、往時の平城京と現代の奈良の魅力をオーバラップさせてまとめあげた推理小説です。

謎を解いて解答を応募してもらうことが主眼なので、この小説には推理小説につきものの「謎解き」のシーンはありません。

あえて割愛した状態で、それでも物語としては完結しています。

推理小説としての難易度は低く、ヒントをもらえば誰でも解ける、といったら過言になるかも知れませんが、ミステリー・ファンにはちと物足りないレベルでしょう。これもクライアアントからの要望。

それでも取材を重ね、物語を創作していく過程で、私自身、イメージの中で奈良と平城京は非常に魅力的なものとして、脳裏に焼き付いて行きました。あらためて奈良の魅力を知ることができたと思います。

主催者側にも、そして実際にこの短い小説を読んでもくださった方にも好評を頂きました。

ある意味で、日本の「有史」が始まったと言える奈良。この一年のイベント期間だけに終わらず、多くの人がより親近感を持ってこの地を訪れてくれるようになることを願わずにおれません。

イチオシ! この一冊

この数年「脳」に関しての話題が多い。

「脳トレ」「脳に良い食品」「脳年齢」etc...

私たち生き物に必ず備わっている脳であるが、まだまだ謎だらけの臓器である。

そんな不思議な臓器が自分にもひとつくっついている。

しかし、自分の物なのに全く持って使いこなせていない...

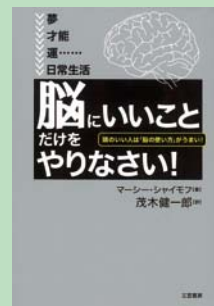
ストレスもネガティブな思考も、逆に幸せも夢も才能もすべて「脳」が支配しコントロールしている。

幸せになりたい。 優れた才能にあふれたい。 夢をかなえたい。

と思うなら自分で自分「脳」をコントロールしたらい!! でもどうしたらいいのか?

そんな方法が満載です。

自分にとって本当の「幸せ」って「夢」ってなに?を改めて問い直すのにも、オススメの一冊です。(図書課 奥田寿生)



『脳にいいことだけをやりなさい!』 マーシー・シャイモフ (著) 茂木 健一郎 (訳)

AO入試

全学部 エントリー締切日2月4日(金) 試験場:本学

「岡山商科大学で学びたい」そんな君たちからのエントリーをお待ちしています。入試部:TEL086-256-6652

一般入試

試験区分	学 部	出願期間	試験日	合格発表	試験会場
中 期 日 程	全 学 部	1月24日(月)~2月10日(木) 窓口受付:2月14日(月)	2月18日(金)	2月25日(金)	本 学
後 期 日 程		2月14日(月)~3月4日(金) 窓口受付:3月7日(月)	3月11日(金)	3月18日(金)	本 学

大学入試 センター試験 利用入試

中 期 日 程	全 学 部	2月 1日(火)~2月24日(木)	個別試験は 行いません	3月 4日(金)
後 期 日 程		2月28日(月)~3月10日(木)		3月18日(金)

Asia Report アジアレポート

孔子学院便り

公開講演会



「中国経済の現状と課題」と題する講演会に学生のみならず、岡山の各界各層の人々350名余りが聴講においていただいたことに主催者として感謝しております。同氏は財務省主計局で勤務しておられましたが、おそらく大蔵省(当時)から最初に駐中国日本大使へ出向された方だと思います。同氏は北京滞在の3年間に中国経済に関心を高められるや、研究に専念されてたちまち東京大学で経済学博士の学位を取得されました。これからも研究、講演など様々な面で活躍されると思いますので、皆さんのお目にとまることもあるはずです。

(経営学部教授・孔子学院長 南部 稔)

中国江西省雑技団



2010年11月5日、中国江西省雑技団は岡山商科大学の体育館で約1時間の公演を行い、集まっていた約300名の市民の皆さんに素晴らしいパフォーマンスを披露しました。

今回の文化交流イベントは岡山商科大学と岡山県日中懇話会、NPO法人井原日中友好経済交流協会が組織した「中国文化交流フェスティバル2010」として企画されたものであり、「あつ晴れ!おかやま国文祭」の一環でもありました。雑技団の楊軍団長をはじめとする22名の代表団は中国国内でも最も有名な雑技団であり、14名の演技者は来場者の皆さんに軟術や、平均桶等の中国の伝統雑技を次々と披露しました。

来場された皆さんは団員たちの素晴らしい演出に感心するとともに、中国の魅力的な文化に感動し、会場の拍手は絶える事がありませんでした。

江西省とは中国南部、長江の中流域に位置し、人口4,400万人、面積は岡山県の約24倍となる17万km²を誇る風光明媚な土地であり、岡山県とは1992年6月に友好縁組を結び、交流を深めています。皆様も一度、是非足を運んでみてください。

(留学生別科 馬仁鳳)

中国絵画・書道展



岡山商科大学孔子学院では設立3周年にあたり、絵画や書道に関するイベントを企画しました。10月1日、孔子学院主催の「中国絵画・書道講演会」を皮切りに、本格的なイベントが始まりました。南部学院長に続き、本学院の提携校である大連外国語学院大学漢学院潘曉春院長が挨拶をされ、「岡山商科大学孔子学院の三年間に亘る業績と成果を評価し、また絵画・書道展のような文化イベントのさらなる発展を心からお祈りします。」と述べられました。講演会では絵画及び書道の展示を行うとともに、大連外国語学院大学芸術学院の王春雨、張超の両講師が絵画及び書道についての講演を行い、その後実演も披露し、来場の皆様に楽しんでいただきました。

また、2010年10月2日(土)～3日(日)、コンベックス岡山にて行われた「2010おかやま元気まつり」の一環として「岡山商科大学孔子学院中国絵画・書道展」を出展しました。

生き生きと描いている奔馬から、あっさりとしていて上品な書道作品まで、その作品を目の当たりにした来場者の方々は心を深く引きつけられて、絵画・書道の世界にふけっていました。

また、王春雨講師による絵画の実演では、瞬く間にまるで生きた馬が描かれている様子に感嘆の声があがっていました。

(孔子学院派遣教師 陶莎)

2010年度のアジアビジネスコースについて

2010年度はアジアビジネスコース(AB)にとっての節目となる年です。開設4年目となる本年度は初の卒業生を送り出します。2010年12月現在、AB1期生の卒業予定者は8名と少ないですが、岡山の有名企業や全国的に見て非常に特徴のある企業に内定している学生もいます。AB学生は1年生で大連での中国留学と現地でのインターンシップを経験し、中国語だけでなく、中国人や中国にきているさまざまな国の留学生、企業の方々と交流を通じて非常に多くのことを学んだようです。そして、自分の能力について認識し、あるいは反省し、「これから何をなすべきか」ということを見つめなおした学生が多いようです。

その結果として、何事にも積極的に立ち向かえる人間として成長しているようです。例えば、何人もの学生が積極的にオープンキャンパスに参加し、高校生みなさんにABの魅力伝えるために自分たちの経験を語ってくれました。また、大学祭ではAB2期生が中心となって同じゼミの中国人学生や韓国人学生だけでなく他のゼミの留学生も巻き込んでにぎやかに模擬店運営をしました。AB学生は積極的に留学生と関わることで岡山商科大学の「国際化」に貢献しています。さらに、キャリア行事等への参加率もとても高く、フィリピンやカンボジアでの海外インターンシップ、就職合宿、合同説明会等へ参加する学生が多く見受けられます。

コースの最終到達目標は『グローバル感覚を身に付けた「国際ビジネスエキスパート」になる』ことですが、その理想に近づけている実感を持っています。

(経営学部経営学科アジアビジネスコース長 蒲 和重)

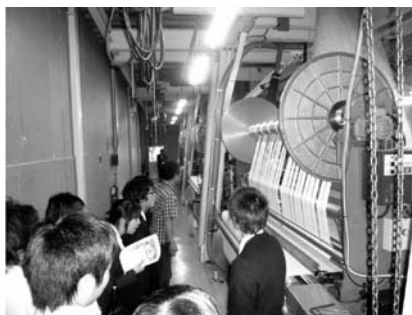
アジアビジネスコースでは2011年度より留学時期を1年生の9月から2年生の8月までとします。
大連への渡航費(航空運賃)の半額を大学が負担します。

キャリアセンター便り

地学地就バスツアーに行ってきました!

この度、愛媛県の地元企業を中心とした地学地就バスツアーを実施しました。(※下記参照)

企業を訪問した学生は工場を見学し、実際に自分の目で見て、体感することにより、身の回りにあるものがどのように作られているか、またそこでどのような人が働いているかなど普段の生活では学べない多くのことが学べました。今回はどちらの企業も生の社長の声を聞く機会があり、学生も自ら積極的に質問をし、企業の話や就職活動だけでなく、今後の将来へ役立つ言葉を沢山頂けました。



今後、バスツアーを開催する予定ですが、多くの学生に地元企業の良さを知ってもらえるようより一層努力して参ります。

■地学地就バスツアー概要

開催日:8月4日 訪問企業:八木満タオル株式会社、株式会社田窪工業所

2月2日・3日・24日 2012年3月卒業予定対象学内合同企業説明会開催

毎年度開催している「学内合同企業説明会」を本年度も2012年3月卒業予定の3年生を対象に開催します。昨年度は、厳しい就職環境の中、約150社の企業等に参加いただき、延べ300名の学生が各企業等のブースで熱心に説明を聞きました。リーマンショック以降、景気悪化に伴い、学生にとっては就職氷河期の状況ではありますが、今回も、中四国地区の地元企業を中心に多くの企業等の参加が見込まれ、本学学生にとっては、大きなチャンスとなります。また、毎年この学内合同企業説明会がきっかけで、採用されるケースが多くありますので、積極的に参加して、これを契機に企業とのマッチングにつながって欲しいと思います。また、2月2日は同時開催にて岡山県信用金庫協会との協定事業による「信金セミナー」と「信金合説」、そしてキャリアセンターによる「企業訪問解説会」も開催します。

【学内合同企業説明会】

●開催日程:2月2日(水)、3日(木)、24日(木) いずれも13:00~16:00 ●場所:学生会館

【信金セミナー&信金合説】

信金セミナー ●開催日程:2月2日(水) 11:00~12:00(予定) ●場所:831教室(予定)

信金合説 ●開催日程:2月2日(水) 13:00~16:00 ※学内合同企業説明会と同時会場。 ●場所:学生会館

【企業解説会】

●開催日程:2月2日(水) 9:30~11:00 ●場所:831教室

●開催日程:2月3日(木) 11:00~12:00 ●場所:331教室

●開催日程:2月24日(木) 11:00~12:00 ●場所:331教室

人事担当者がキャリアカウンセラーに!~キャリアカウンセラー事業開始~

現在、本学では文部科学省・学生支援推進プログラムにて「『地学地就』の理念に基づいたキャリア教育と就職支援の強化」として採択の上、取組みを行っています。その取組みの一環として、昨今の厳しい就職環境を踏まえて、政府が経済対策として各大学にてキャリアカウンセラー増員等による相談支援の強化を2010年8月30日に示されたところです。

本学では、すでに学科別個別相談体制のもと学生への相談業務を実施しておりますが、今回、主に4年生を対象として、さまざまな角度から学生へアドバイスを頂きたいことから、県内企業等の人事担当者を中心にキャリアカウンセラーとして12月~3月までの期間、ご協力いただくことになりました。

12月は、計6回開催し、メーカー、金融、小売り、マスコミなど6社の人事担当者にお越しいただきました。そのうち、12月6日は学生服メーカーの明石被服興業(株)総務部係長川上智宏様(本学卒業生)がカウンセラーとなり、企業人の視点・人事担当の視点、そしてOBとしての視点から学生へアドバイスを頂きました。この事業は、2011年3月まで実施していきます。

業界別OB座談会開催



各業界で活躍している本学卒業生から、業界の話・仕事の話・学生時代の話など座談会形式にて聞く、「業界別OB座談会」が12月1日に開催しました。

当日は、旅行・金融・スーパー・ドラッグストア・学生服メーカーの業界で活躍中の5名の卒業生にお越しいただきました。前半は、司会からのインタビューをもとに、5名の卒業生が現在担当している仕事の話、また一方で学生時代の就職活動体験談を披露され、学生達も熱心に聞き入っていました。後半は、各企業別ブースにて学生が関心のあるブースへ訪問し、先輩から直接話を聞いていました。参加した学生からは、「直接、先輩方からの声が聞けてよかった。」「OBの方の話は参考になった。」などの声がありました。

(参加卒業生)

近畿日本ツーリスト(株) 山崎 正和氏

山陽マルナカ(株) 青江 幹仁氏

明石被服興業(株) 伊丹 祐師氏

おかやま信用金庫 杉岡 洋平氏

(株)ザグザグ 後安 拓郎氏

人事異動

種 別	役 職 等	氏 名	所 属	日 付
異 動	主 任	中 村 裕	産学官連携センター	10月1日
	主 任	橋 本 真記	総 務 企 画 課	
	事 務 職 員	面 手 昌樹	学 生 課	
	事 務 職 員	赤松 美由紀	教 務 課	
	事 務 職 員	韓 壮	入 試 課	
	事 務 職 員	佐々木 皓平	会 計 課	

叙勲

平成22年度秋の叙勲において、本学と関係の深い2名の方が受章されました。心からお喜びを申し上げます。

元商学部 助教授

安藤伸吾先生 《瑞宝双光章》

元学生部 参与

村上 敦さん 《瑞宝双光章》

サークル紹介

はじめまして、iSi(アイエスアイ)です。iSiは顧問である武元卓巳先生の下、2008年12月に発足したばかりの、文化系サークルの中でも人数が最も多いサークルです。そして、本年10月に正式な部に昇格しました。20名からなるiSiのメンバーの中には、税理士試験(簿記論)、基本情報技術者試験、日商簿記1級、1回生でFP2級合格者などがいます。

iSiの活動目的は、各自が設定した目標に主体的に取り組むことと、サークル全体でモチベーションを高め合い、最終的に人格・キャリアともにバランスのとれた人間を目指すことです。

活動内容は、毎週水曜日に行うミーティングが中心です。その中では、最近の勉強状況などの報告や、スピーチとそれに続く質疑応答を通した「話す」「聴く」「質問」練習、サークルで取り組む人材育成活動の話し合いなどを行っています。その他に、メンバーには大学院生が在籍していることから、『チュータ制度』を取り入れています。

部活動以外の日には、341教室などに集まり各自で勉強しています。そして、分からなかったこと、共有したい内容があればそれぞれで話します。先輩、後輩共に、同じ目標を掲げて頑張っている仲間として高め合うことが出来ればと考えています。難関試験などを受験する際、一人だとモチベーションが続かない時がありますが、このように、一緒に頑張れる仲間がいることで、志を共有し、時には競い合い、継続してやっていくことが出来ます。

現在は、税理士科目合格、応用情報技術者試験、日商簿記1級、社労士、宅建、FP2級などを目指している部員がおり、様々な分野の人と関わることによって視野を広く持つことを目標としています。

様々なジャンルの勉強をしたい!難しい資格を取得したい!チャレンジ精神溢れる人たちと切磋琢磨してみたい!そんなチャレンジ精神溢れる仲間をもっと増やしたいと考えています。

(iSi部長 経営学部 経営学科2年 金山和輝)

本学卒業生が起業し「おかやま弁の歌」などを手がける

平成15年3月に本学を卒業した鎌尾富弘(法経学部)さんと安井秀夫(商学部)さんが、プロモーション事業を行う会社を起業しています。TV番組の制作やイベントの企画等、幅広い分野で活躍されています。平成22年には「おかやま弁の歌」を作詞作曲されましたのでご紹介します。



東京のライブイベントに出演し「良い音楽さえ作れば売れる」と軽く考えていました。しかし、「演奏には自信があったが、受け入れられなかった」。原因を追及してみると「周りは全員ビジネスとして活動しているのに、自分は音楽が好きただけだった」と痛感しました。プロモーションの大切さを知り「将来、プロモーションビジネスで成功したい」と決意し帰岡、2009年3月に株式会社ブランディングファクトリーを設立、「岡山を楽しく元気にできる会社をつくりたい」をコンセプトに、音楽、PV、CM、TV番組、デザイン、HP、イベント企画を展開しています。

そんな中、岡山県民が故郷を思いだすことができ、「岡山を元気づけられる曲」を作ろうと、岡山市と岡山弁協会の協力で「おかやま弁の歌」の作詞、作曲を担当しました。

各種イベント等に出演し、生ライブで「おかやま弁の歌」を披露し、「徐々に認知度を上げていき、最終的には岡山県民全員が口ずさめるように浸透させたい」と考えています。

株式会社ブランディングファクトリー 鎌尾富弘 安井秀夫

平成22年度卒業記念パーティー開催の御案内

最近、ますます寒くなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今年度も卒業生を祝う、また卒業生との別れを惜むという目的のため、卒業式終了後に、卒業記念パーティーを下記の内容の通り、開催することと致しました。卒業生の方も卒業式後とあってお疲れでしょうが、是非お誘いあわせの上御出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。ならびに、教職員の方々もご多忙とは存じ上げますが御出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。

記

- 1.開催日時 平成23年3月22日(火)
12:30 受付開始 13:00 開宴 14:30 閉宴
- 2.開催場所 岡山商科大学 学生会館1F 食堂
- 3.会費 無料
- 4.注意事項 ①酒類をはじめとしてアルコール類は一切提供しない。
②会場周辺の美化に勤める

卒業記念パーティー実行委員会 委員長 北川 宗平

卒業式・入学式の御案内

卒業式の案内 2011年3月22日(火)10時30分～

入学式の案内 2011年4月 3日(日)10時30分～

※いずれも体育館にて

岡山オルガノン 10/2地域活性化シンポジウム

岡山オルガノン地域活性化委員会では、各大学が個別で行っている地域に関する研究を取りまとめ、相互に連携協力することにより、新しい形で地域活性化を実施するための活動を行っています。



平成22年10月2日に開催したシンポジウムは、岡山理科大の波田学長の挨拶に始まり、第1部では倉敷芸術科学大の藤高教授、くらしき作陽大の木戸教授、山陽学園大の濱田教授、岡山理科大の志野教授による地域に関する取り組みや研究成果の発表が行われました。本学からは、「新庄村における集落活性化の取り組み」と題して、経済学部の大田教授が登壇しました。

第2部では、倉敷商工会議所の岡副会頭(当時)、和気町丸山・南山方区集落機能再生協会委員会の片倉氏、笠岡市建設産業部経済観光活性化課の守屋氏をパネリストとし、活発な議論が行われました。

平成22年度共同研究・受託研究について

産学官連携センターでは、平成22年度は2件の共同研究、1件の受託研究を実施しています。共同研究では、浅野産業株式会社と本学経営学部小松原教授による「暮らしのポータルサイトに関する研究」、西尾総合印刷株式会社と本学経営学部高林准教授による「地方都市における印刷及び、関連産業におけるシナリオ手法を用いた業態変革に関する研究」を行っています。受託研究では、岡山県と本学経済学部多田教授による「ソーシャルビジネスを協働の担い手として根付かせるための調査・研究事業」に関する委託研究が行われています。

社会科学分野での共同研究等は、技術的シーズを基盤にする自然科学分野と比較して、取り組み方法に違いがあり、産業や行政などへの理解が進んでいない現状があります。本学の取り組みについては南大阪地域大学コンソーシアムからヒヤリング調査を受けるなど、注目を集めています。これからも積極的に共同研究事業を行っていきます。

共同研究・受託研究に関するお問い合わせ(岡山商科大学産学官連携センター・TEL086-256-6676)

平成23年度双方向ライブ型遠隔講義について

岡山県15大学連携による単位互換の双方向ライブ型遠隔講義が、今年度前期からスタートしました。

最新最高画質のテレビ会議システムのカメラが、お互い他大学の学生の顔や先生の映像、そして講義資料等のコンテンツを遠隔地の他大学の教室にリアルタイムで配信します。学生は、対面授業のように違和感なく交流を図ることができ、参加意識を持って受講することができます。

平成23年度の双方向ライブ型遠隔講義は、岡山商科大学の「経営学特殊講義Ⅰ」・「経営学特殊講義Ⅱ」、岡山大学の「大学と社会」、岡山県立大学の「音楽の鑑賞」、岡山理科大学の「岡山学」、川崎医科大学の「個人・社会と医療考」、川崎医療福祉大学の「哲学」、倉敷芸術科学大学の「まちづくりインターシップ」・「倉敷まちづくり基礎論」・「倉敷まちづくり実践論」、くらしき作陽大学の「特別支援教育総論」、山陽学園大学の「宗教思想」、中国学園大学の「現代子供学入門」の13科目が開講される予定です。(科目は追加・変更、名称変更される場合があります。)

e-Learning講義について

岡山県15大学連携による単位互換のVOD型e-Learning講義が、今年度後期より開講し、岡山理科大学の「アルゴリズム入門」、川崎医療福祉大学の「睡眠学」、吉備国際大学の「スポーツ産業論」の3科目が配信されています。

Video On Demand方式によるe-Learningは、パソコンを使用して動画配信される授業を見ながら自分のペースに合わせて繰り返し受講できる、新しい学習システムです。履修生はインターネット上で先生に質問や課題提出ができ、通常の授業と同じ感覚で受講することができます。

平成23年度のVOD型e-Learning講義は、岡山商科大学の「パーソナルファイナンス」、岡山大学の「知らなきゃばい、大人のマナー」、岡山県立大学の「解析学Ⅰ」、岡山理科大学の「アルゴリズム入門」・「インターネット入門」・「環境と社会」・「環境考古学」、倉敷芸術科学大学の「西洋美術史Ⅱ」、くらしき作陽大学の「音楽療法概論」・「食心理学」、山陽学園大学の「現代中国論」、就実大学の「日本人の思想」・「日本美術史b」の13科目が開講される予定です。(科目は追加・変更、名称変更される場合があります。)

オフキャンパス・セミナー2010年度実績

オフキャンパス・セミナーは本学教員が岡山県内の地域団体や企業の方々のニーズに応じた内容の講義を無料でお届けする出前講義です。1999年度からスタートしたこの制度は、専門分野における日頃の研究成果を広く地域の皆様に還元させていただくことを目的としたものです。2011年度のセミナー実施は6月中旬からです。お問い合わせは社会総合研究所(TEL086-256-6656)まで。

●2010年9月1日

板野機工株式会社様のご依頼により講演
「営業に関する、企画力、マーケティング、提案力」
経営学部 教授 山口博幸

●2010年8月26日

真庭商工会様のご依頼により講演
「商業による街の活性化」
経営学部 教授 岡本輝代志

岡山県生涯学習大学(大学院コース・国際理解分野)実施報告

テーマ:「現代市民社会と法」

今回は定員(20名)を上回る31名の方に受講いただきました。今回の講師は法学部教員が担当し、裁判員制度、離婚問題等、日常生活に関わる内容を取り上げ、法律をわかりやすく解説しました。

月日	テーマ	講師
8/3	離婚法における有責主義から破綻主義への転換	成澤 寛
8/4	経済法生成の歴史・独占禁止法の沿革	中山秀木
8/5	消費生活・契約と法	倉持 弘
8/6	地方自治のグローバル化とこれからのわが国の地方分権の方向 ~補充制の原則の具体的な適用について~	安宅敬祐
8/23	現代国家における法の構造と多様性	青井秀夫
8/24	裁判員裁判のゆくえ ~陪審裁判との比較・運用一年を振り返る~	小浦美保
8/25	(午前)労働判例の最近の動向・両親の離婚と子の利益 (午後)外国人の人権	香山忠志 西浦 公
8/26	グローバル化社会の視点で見る日本の歴史	渡辺 渡

吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム)提供講座

吉備創生カレッジは、大学コンソーシアム岡山と山陽新聞社が共催で開講している一般市民向けの公開講座です。大学コンソーシアム岡山加盟大学からそれぞれ講師を派遣しており、各大学の特色を生かした内容で行われています。平成22年度前期では半期の受講者が初めて500名を超えるなど、市民の間に広く浸透し、人気講座となっています。

平成22年度は本学から、以下の講師を派遣しています。

月日	テーマ	講師
2010年 7月2日、16日、30日	地域づくりの課題と展望	多田憲一郎(経済学部教授)
2010年 7月8日、22日、8月5日	中国の歴史と経済	南部 稔(経営学部教授)
2010年 7月9日、7月23日、8月6日	歴史研究と歴史教育の現状	渡辺 渡(法学部講師)
2011年 1月21日、2月4日、2月18日	財務分析と株式投資	市村 巧(経営学部教授)
2011年 2月15日、3月1日、3月15日	国際社会のルールづくり	砂川和泉(法学部准教授)

「第6回地域再生シンポジウム」開催します

①開催日時 2011年3月5日(土)13時~16時30分

②開催場所 岡山商科大学7号館781教室

③シンポジウムテーマ 「地域主権を考える」

※参加無料

お問い合わせは産学官連携センター(TEL 086-256-6676)まで